



消化器内科シリーズ

第10回

消化器内科部長・内視鏡室長

村木 むらき

崇 たかし

1年間にわたり、消化器（食道、胃、大腸、胆管、胆嚢、膵臓、肝臓）の病気について記載してきました。今回、消化器内科シリーズとして最後の回になりますので、あづみ病院 消化器内科、特に内視鏡の診療内容について簡単に紹介させていただきます。

●現在、沢山の胃がん、大腸がんの患者さんを診断し、治療しています！

内視鏡検査			昨年4月から本年3月13日まで
検査名	検査数	詳細	
上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）	月450件以上。（1週間に100人以上） 60人程の胃がんを診断。 他、食道がん9人、十二指腸がん（高度異形腺腫含む）7人。	・内視鏡的切除を33人42病変。 ・外科的切除を12人。	
下部消化管内視鏡検査（大腸カメラ）	月90件以上。（1週間に20人以上） 110人程の大腸がんを診断。	・内視鏡的治療を27人。 ・外科的切除を63人。	
内視鏡治療			昨年4月から本年3月13日まで
検査名	治療数		
胃がん・食道がん 内視鏡的切除術	月5件以上。（毎週1～2件）		
大腸腫瘍 内視鏡的切除術	大腸がんやポリープ（前がん病変）の切除 月20件以上。（1週間に5件程）		
膵臓、胆管 内視鏡的検査・治療 （結石除去、ステント留置など）	年100件程。		

●今年度はさらに専門性の高い検査、治療が可能になります！

検査名	検査内容	可能になること
胆膵超音波内視鏡検査	内視鏡の先端に超音波装置が付いており、消化管より直接胆嚢、胆管、膵臓を描出、評価できます。	・CT、MRI、PET検査など画像検査の種類は多岐にわたりますが、胆膵領域に関しては細かい病変の評価には超音波内視鏡が最も優れた検査法。 ・特に胆嚢ポリープや膵嚢胞など数mm単位の病変の評価に最も優れています。
膵管・胆管 管内超音波検査	内視鏡を用いて胆管や膵管を行う超音波プローブを挿入し超音波検査。	・1mm程の小さな結石の評価。 ・がんかどうか、また、がんの広がり具合も評価可能。
消化管超音波内視鏡検査	内視鏡の先端の超音波装置により粘膜の下の方の病変を評価できます。	・がんの進行度も評価可能。 ・食道や胃の粘膜の下にできた腫瘍の診断が可能。
超音波内視鏡ガイド下吸引生検法	超音波画像を見ながら血管を避け安全に細胞採取ができます。消化管の近くにあり大きな血管が間になれば消化管周囲のリンパ節や膵臓などの腫瘍に針を刺し細胞採取できます。（1泊入院）	・膵がんの早期診断や確実な診断に寄与。 ・膵嚢胞や腹腔内膿瘍などのドレナージ（液体貯留しているところに針を刺し、胃と袋の間にステントを留置し、液体貯留をつぶす治療）も行えるようになります。

●消化器内科医が増えます！

さらに、本年4月からは信州大学 消化器内科で共に働いてきた中村麗那先生が常勤となり、一段と消化器内科の診療は充実いたします。

●個々の患者さん、家族に合わせた最良の消化器内科診療を提供します！

2018年度は、左記施設認定を得ることができました。

- ・日本消化器病学会 専門医制度 関連施設
- ・膵臓学会 指導施設（現在、長野県では当院の他、大学病院、篠ノ井総合病院の2施設のみ）
- ・胆道学会 指導施設（現在、長野県では当院の他、8施設のみ）

今年は、日本消化器内視鏡学会 指導施設、日本消化器病学会 認定施設を新たに申請する予定です。大北地域のみならず長野県の消化器診療をリードし、最良の、最新の、高度な医療を患者さん、ご家族のニーズに合わせて提供できるよう日々診療をしたいと考えております。何か困ったことございましたら、消化器内科外来を受診してください。今後ともよろしくお願いいたします。

消化器内科

月曜日・水曜日・金曜日・火曜日（第1以外）午前中
お問い合わせ：0261-62-3166
14時～17時の間にお問い合わせください。